

た な か ま さ き

田中昌樹さんが東京パラ審判として活躍！

8/24 [Tue]~9/5 [Sun]

今夏に開催された東京2020パラリンピック競技大会のバドミントン競技で、田中昌樹さん（北多久町、東原産舎西溪校教諭）が審判に選ばれ、活躍されました。

田中さんは平成2年に旧西部小学校でクラブを創設するなど、これまで多久市でバドミントンの普及・活性化のため積極的に活動。現在は多久スポーツピアバドミントンJrの監督を務められています。

世界的な大会を経験した田中さんは「選手一人ひとりの特性に合わせ、選手の可能性を信じて引き出す大切さなど、良い学びがたくさんありました。これからもバドミントンをととして、たくさんの人が幸せな人生を送れるよう支援していきたいです」と話されました。



▲大会の成功に尽力された田中さん（左端）と、スタッフのみなさん

セーフティライン作戦多久を実施！

9/21 [Tue]



▲横断幕などを掲げ、安全運転を呼び掛ける参加者のみなさん

秋の交通安全県民運動（9月21日～30日）の一環として、国道203号多久市役所前交差点で「セーフティライン作戦多久」を実施しました。

この事業は、多久市交通対策協議会が市民の交通安全意識を高めるために3年前から取り組んでいるものです。参加した小城警察署、多久地区交通安全協会、多久市交通安全指導員会、多久市役所の各関係者らが沿道で横断幕やのぼり旗、ハンドポップを持ち、国道通行中のドライバーへ啓発活動を行いました。

多久地区交通安全協会の野口昌英会長は「安全運転の意識を高め、事故をなくしていきたい」と話されました。

多久の四季ごよみが完成！

9/22 [Wed]

四季折々の鮮やかな景色や祭りなど、さまざまな多久の風景を楽しめる令和4年のカレンダー「多久の四季ごよみ」を写真クラブ「一木会」が制作し、市に贈呈されました。

多久市の魅力をさらに広めていくため、会員6人が月ごとに撮影した写真を持ち寄り、25枚の写真を掲載。発案者の南里忠宏さん（北多久町）は「多久をもっと元気にしよう」と制作を提案し、仲間も快く賛同してくれました。写真をととして多久の魅力を再発見し、また離れて暮らす人には故郷を懐かしんでもらえたら嬉しいです」と笑顔で話されました。

カレンダーは1部500円で、朋来庵と多久市まちづくり交流センター「あいぱれっと」で好評販売中です。

※数に限りがありますので、なくなり次第販売終了となります



▲贈呈式でカレンダーを手にする南里さん（右から3人目）と一木会のみなさん、横尾俊彦市長（左から2人目）、田原優子教育長（左から1人目）